

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600114		
法人名	株式会社 康生会		
事業所名	グループホーム三愛の里うつね(1F)		
所在地	〒621-0801 京都府亀岡市宇津根町土井ノ内48番地1		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2691600114-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上の梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和3年2月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○職員間で情報が共有できるように、職員個々での情報発信を心掛けている。 (チームケアの強化)</p> <p>○利用者主体のケアができるよう利用者の行動に意味を持って考えるようにしている。</p> <p>○利用者の自立支援及び機能維持のため、出来る範囲での作業を依頼するよう心掛けている (家庭菜園での収穫、洗濯物干し・畳み、食器洗い、掃除など)</p> <p>○OJTやOffJTを積極的にいき、職員のスキルアップを図っている。</p> <p>○チームケア向上のため、ユニットテーマを決め、それを目標に日々のケアを行うよう心掛けている。</p> <p>○気付きを大切に、その気付きをケアに生かすようにしている。(目配り、気配り、心配り)</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム三愛の里うつね(2ユニット)は、株式会社康生会の傘下として平成29年2月に開設されました。社是は「感謝と真心」と掲げ、経営方針、運営理念とともにパンフレットに明記して内外に発信しています。現在の利用者の平均年齢は86.8歳、平均介護度2.6です。今年度はコロナ禍で外出行事や家族面会が自粛され、事業所内だけの生活に、利用者がストレスを生じないように、ドライブは継続して気分転換を図っています。また、施設内行事の充実に向けて、利用者一人ひとりから要望を聞き取り、編み物や裁縫、雑誌を読む、野菜を育てるなど必要なものを購入し個別レクリエーションに取り組んでいます。職員は他府県への移動や会食を自粛し、来訪者が来ないことでの緊張感が薄れないように話し合いを重ね、研修を継続して支援に努めています。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内に理念、ユニットテーマを掲示し、職員が常に意識できるよう努めている。 ・毎週月曜日の申し送り時に理念唱和を行うよう心掛けている。 ・2ユニットが理念を基にしたユニットテーマを掲げ、職員が共通認識を持つようにしている。	会社の社是、運営理念を踏まえ、ユニットテーマ「〇丁寧な仕事を心掛ける〇チームワークを大切に〇利用者とのコミュニケーションを大切に」を掲げ、全員が意見を出し合い、常に情報を共有して日々のケアの統一を図っている。毎月のユニット会議で振り返りをして実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の保育園から園児交流会を実施。園児と利用者の交流を図る。(コロナ禍の為今年度は実施できず) ・地域の店舗での買い物を実施している。 ・地域の美容室より訪問カットを依頼している。 ・食事会など施設行事の食事を地域の店舗に依頼している。	今年度は地域の祭や保育園児との交流、地域の方が利用する「地域交流スペース」の活用、各種ボランティアの来所、神社の清掃活動などすべて中止である。年末に地域の方たちと作る「しめ縄作り」は各ユニットでおこなった。2か月毎の訪問美容は継続している。行事の時の食事を地域の店に依頼して弁当を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所見学にて説明と理解に努めているが、新型コロナウイルスの影響で見学は実施できていない。 ・認知症の相談があった場合にはできる限り分かりやすい説明を行うよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・事業所見学にて説明と理解に努めているが、新型コロナウイルスの影響で見学は実施できていない。 ・認知症の相談があった場合にはできる限り分かりやすい説明を行うよう心掛けている。	会議メンバーは、家族、地域代表3名、市担当職員、地域包括支援センター職員、康生会社長など多彩なメンバーで活発な意見があり情報交換をしていたが、現在は書面で報告して意見や感想をお願いしている。しかし、意見や提案は少ない。家族に会議への案内はおこなっていない。議事録は来訪者が閲覧できるように玄関に設置している。	会議に当たっての書面の内容をもう少し充実させてはどうか。事故やヒヤリ・ハット、行事、各種サービス内容など、詳細な記載が望まれる。また、家族に会議への案内と議事録の送付を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・協力体制の構築や情報収集に努めている。	運営推進会議メンバーに市担当職員の出席を得ており、日頃から連携が取れる体制ができています。今年度は、市主催の諸会議は中止である。日本認知症グループホーム協会京都府支部に加入して、介護研修発表会で「スピーチロックについて」を管理者が発表している。同業他社との交流を図り、情報交換している。	

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束の現状について年4回会議を行っている。</li> <li>・身体拘束廃止研修を定期的に行い、職員に対して教育を行っている。</li> <li>・新任職員に対しては入職時に身体拘束の基本的な説明を行っている。</li> <li>・利用者に納得のいく説明や声掛けの工夫によってスピーチロック防止に努めている。</li> </ul>	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、「身体拘束及びその他の行動制限を禁止する」を基本方針として、重要事項説明書にも明記してある。身体拘束廃止委員会(管理者、ケアマネジャー、看護師、介護主任)は定期開催して虐待についても話し合っている。職員研修は5月、11月で定例化している。ユニット会議でも意見交換をして、スピーチロックにならないよう「〇〇さんどうしました」の声掛けを統一している。JRの電車が事業所横を通っているため、玄関のみ施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に対する知識や理解を職員が得られるようOJTの実施や外部研修で学ぶ機会を設けている。(コロナ禍の為外部研修は参加できず)</li> <li>・利用者への不適切な言動や対応については職員間、主任、管理者への報告を徹底している。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見人制度が必要な利用者の援助を行うことで制度について学ぶ機会ができた。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解、納得していただけるような説明を心掛けている。</li> <li>・理解して頂いたことを確認しながら説明を行っている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会での意見を取り入れ、日々のケアに反映するよう努めている。</li> <li>・面会時などでできるだけ家族と話し、要望を聞くようにしている。</li> <li>・施設玄関に意見箱を設け、積極的に意見を取り入れるようにしている。</li> </ul> <p>※今年度は新型コロナウイルスの影響により、面会、家族会は実施できていない。</p>	通常なら年2回の家族会を開催しているが今年度は中止している。面会も自粛でオンラインでおこなっている。その中でも「退院後どうしても顔を見たい」との要望があり配慮したり、「業者を事業所の中に入れてほしくない」などの声にも対応している。意見箱への投稿はない。今年度目標達成計画に、顧客満足度調査の実施を掲げていたが実行できていない。	顧客満足度調査からは意見や要望、苦情とともに、感謝やねぎらいの言葉が寄せられる。家族会に参加できない家族の声も収集できる。定期的に調査をおこない、日々提供しているサービス内容などの検証に役立たせることを期待する。

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業部会議を毎月開催し、運営に関する意見交換を行っている。</li> <li>・ユニット会議を毎月行い、職員間での意見交換を行っている。</li> <li>・申し送り時に必要であれば、ミニカンファレンスとして話ができる機会を設けている。</li> </ul>	<p>管理者は、適宜職員からの相談を受けている。ユニット会議には出席している。毎月開催のユニット会議では、カラーボックスやかごなどの物品の購入希望や、寄贈のタオルを蒸しタオルにして、十分に洗顔できない方への顔拭きに活用してはどうか、バスリフト購入の検討など、意見や提案があり、反映させている。日々の気づきを「気づきノート」に書き検討もしている。社員評価制度があり、年1回「自己評価シート」に記入し、管理者が評価して会社に提出している。自己評価に沿った個別面談の実施は今後の課題である。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員評価制度を導入し、職員の取組み姿勢を確認するようにしている。</li> <li>・研修や資格取得については積極的に取り組めるよう支援している。</li> <li>・希望休の確認や勤務調整をできるだけ希望通りに行っている。</li> <li>・個人面談を行い、目標確認や相談等を聴き、職員個々のモチベーションアップに努めている。</li> <li>・必要な資格や経験等、常に職員個々がチャレンジしやすい環境・条件の整備に心掛けている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員個々をアセスメントし、個性や力量を把握したうえで指導していくよう心掛けている。</li> <li>・エルダー制を導入し、より個別に指導できるよう努めている。</li> <li>・スーパービジョンを取り入れ、職員の主体性を育てるようにしている。</li> <li>・事業部内研修、外部研修への参加機会を設けている。</li> <li>・業務で役割分担を行い、自身が責任を持って業務にあたる機会を設けている。</li> <li>・個々の能力に見合ったスキルアップが図れるよう配慮している。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム協会、グループホーム連絡会に加入し、その他の同業者間で行う研修や交流会、催しには積極的に参加するようにし、情報収集やサービスの質の向上に努めている。</li> </ul> <p>※今年度は新型コロナウイルスの影響の為参加できず。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子観察や本人の気持ちをゆっくりと日常の中で傾聴するよう努めている。</li> <li>・まずは環境に慣れていただくことを第一と考え、環境整備や、人間関係の構築に努めている。</li> <li>・「その人らしさのアセスメントシート」を活用し、入居時の情報収集に努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族から職員に話しかけてもらえるような雰囲気作りを行っている。</li> <li>・スタッフからも困っていることがないか尋ねるようにしている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で意見を出し合い、家族、利用者双方に対して多角的にサービス提供ができるように努めている。</li> <li>・24時間シートを活用し、その人の生活状況を把握するようにしている。</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な与えるケアではなく、利用者のその時の状況を踏まえて、本人の思いに添ったケアを行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては、利用者を共に支え合う立場ということで、ボランティアとして協力していただくことを働きかけている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響で家族への協力要請は行ってない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先を馴染みの場所に設定したり、面会等で馴染みの人と会える機会を設けるよう努めている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず。	これまで培ってきた人間関係や地域社会との関係は、コロナ禍のため絶ち切られているが、その中でも本人の希望により昔から利用していた湯の花温泉周辺や自宅周辺へのドライブに出かけたり、趣味だった裁縫や手芸など、また、職員が指導する生け花を継続しておこなっている。畑があり、係の職員は年中収穫ができるように計画して、野菜や花を利用者とともに育てている。この季節には青々としたネギがある。職員は家族に、利用者の生活状況を毎月手紙で伝えている。	

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションにて一緒に作業をしていたり、スタッフが関わる等孤立しないように努めている。 ・利用者同士の関係性構築の為にスタッフが仲介し支援するよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・行政や地域に働きかけ、契約終了後も安心して暮らせる為のサービス提供に向けてフォローを行っている。 ・サービス利用時から家族との関りを大切に、相談しやすい関係性を作るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何をしてほしいのか、何を求めているのか等、日々の暮らしの中での本人の希望や要望を理解するように努めている。 ・本人の性格や生活リズム等から本人の思いを汲み取るようにしている。	通常のアセスメントシートの生活歴の見直しや「その人らしさのアセスメントシート」を作成している。生活史や価値観、本人の願い、人との関わり、環境や5感についての好み、家族の願い希望、その人らしさとは、などの項目があり利用者の人物像や家族の思いが把握できる。これらの情報は職員間で共有して、日常生活の中でその人らしさを尊重した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時には本人の生活歴や、生活環境、その人らしさをアセスメントし、職員全員が周知するよう努めている。 ・「その人らしさのアセスメントシート」を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・様子や顔色など状況の変化を見逃さないようにしている。 ・朝夕の申し送りや記録を確認しながら、一人ひとりの現状把握に努めている。 ・体調変化や状態変化は個別の記録表を作成し、状況と変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・少しでも気になる点があれば、職員間で意見交換し、それをケアプランに生かしている。 ・家族の意見や意向を踏まえて計画作成している。 ・月1回のカンファレンスやユニット会議での意見を計画作成に反映させている。	アセスメントシートや家族の意向を踏まえ、丁寧に多数の介護課題を抽出している。毎月のケアカンファレンスやユニット会議で職員からの意見を聞きサービス内容を見直している。3か月毎のモニタリング、6か月毎のサービス担当者会議をおこなっている。サービス担当者会議には家族の参加があるが、今年度は電話で意向確認をおこなっている。看護師の参加はある。基本的な介護マニュアルの作成が不十分である。	各介護マニュアルは、事業所がどのようなサービスを提供するかの基本的姿勢を示すものである。何が必要か検討して、ユニット会議やカンファレンスで話し合っている創意工夫やプライバシー保護など取り入れて作成され、新人指導にも活用されることを期待する。

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・5W1Hを意識した記録を心掛け、記録以外でも連絡・相談・報告を行い、常に情報を共有するようにしている。 ・職員間の連絡手段として、連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・優先順位と柔軟性を職員一人ひとりが意識し、本人や家族の状況に対して、迅速に対応できるように努めている。 ・多角的な視点でサービス提供ができるように職員のスキルアップやチームケアの向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアや施設を活用し、本人の生活が豊かで楽しいものになるように支援している。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の訪問診療を実施し、体調管理を行っている。 ・医療機関への受診については本人及び家族の希望を聞いたうえで、適切な医療を受けていただけるよう支援している。	利用者は全員が協力医療機関をかかりつけ医に選択している。歯科医の往診を希望者は受けることができる。外部への受診は基本家族が付き添っている。外部受診時は「患者生活状況」の用紙に利用者の状態を書き家族に託している。医師からの説明内容は業務日誌に記録し職員間で情報を共有している。看護師は週3日勤務し、健康管理や入浴時の全身観察、外用薬などの塗布後の観察や指示に当たっている。緊急時は看護師に指示を受けるが、救急車には管理者が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者との関わりの中での変化や気づきを記録し、それを看護師に伝えることで、利用者それぞれに適した看護を受けられるよう支援している。 ・ユニット会議や申し送りに看護師も参加し、情報の共有に努めている。 ・日常生活の中で関りが持てるよう、介護業務にも携わってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者と連絡を取り合い、情報交換するよう努めている。 ・病院関係者との関係づくりを強化するため、積極的にコミュニケーションを取るようにしている。 ・退院カンファレンスでは積極的な意見交換を行い、退院後も本人が安全、安心に暮らせるよう努めている。		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所契約時に終末期ケア(看取り介護)についての指針の説明や、家族の希望を事前に確認するようにしている。</li> <li>看取り介護が適切に行われるよう、体制強化に努めている。</li> </ul>	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、契約時に説明し同意を得ている。現在、医師の往診や職員体制を整えている過程であり、定期的な研修の実施を含め課題として取り組んでいる。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の体調管理に努め、急変時の心構えや対応方法について、OJTや救命講習などで学ぶ機会を設けている。</li> <li>※今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の避難訓練に利用者、職員が参加し、災害に備えている。夜間を想定した訓練も行っている。</li> <li>事業所の立地が水害危険区域でもある為、水害に備えた訓練は特に力を入れている。</li> <li>自然災害での迅速な対応の為、防災メールの登録を全職員が行うよう努めている。</li> </ul>	<p>防災訓練は消防署の指導のもと、昼夜を想定して年2回、利用者と共に実施している。事業所は水害の危険区域の指定があり、訓練では垂直避難をおこなっている。地震時の防災頭巾も事務所に設置している。防災倉庫にはボートや土嚢、長靴があり、水や食品など3日分の備蓄をしている。防災メール登録は全職員がおこない、台風時など被害状況の把握に努めている。宇津根町と近隣防災協定を締結している。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの人格を尊重し、利用者それぞれに応じた働きかけや、声掛けを行っている。</li> <li>職員同士、利用者同士、職員と利用者、いろいろな場面において、その人の人格やプライバシーを損ねないように配慮している。</li> </ul>	<p>コロナ禍でも事業所内研修は継続している。「認知症の方の接し方について」や介護福祉会の倫理要綱に添い「介護倫理」などの研修を実施している。「その人らしさアセスメントシート」などから、利用者をよく知る努力をおこなっている。SNSに利用者の話題は上げない、職員の携帯での写真の禁止、座薬挿入時は他の利用者に悟られないようになど注意を統一している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人による選択や本人の希望を確認してからケアにあたるよう努めている。</li> <li>本人が自己決定しやすいような関わり、雰囲気作りができるよう努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人をしっかりとアセスメントし、理解するよう努めている。</li> <li>職員本位にならず、一人ひとりのペースにあった関りを持てるよう心掛けている。</li> <li>状況に応じて本人の希望を優先できるよう努めている。</li> </ul>		



京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整髪や髭剃りなどの身だしなみができる利用者については、物品を準備してやってもらうよう心掛けている。必要な場合は声掛けを行っている。</li> <li>・介助が必要な方に対しては職員が気付き、身だしなみを整えるようにしている。髪の毛の寝癖は寝癖直しを使用して整髪している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望や好みを献立に反映させるようにしている。</li> <li>・食事の準備や後片付けなど、本人ができることはやってもらっている。また、コミュニケーションを取りながら職員と共同或いは分担してやってもらうようにしている。</li> <li>・毎食献立説明を行っている。食事をする上での話題作りの一環ともなっている。</li> </ul>	<p>食事メニューは利用者の要望など取り入れ、1週間分を作成している。食材は外部に注文して、3日に1回届く。肉や魚のバランス、旬の野菜、カロリーも考慮して献立している。利用者らの育てた野菜も食卓を飾る。包丁を使う利用者から準備や片付けまで出来ることで役割がある。家庭での盛り付けを意識して、陶器の器と木製のお椀を使用し料理の色彩も美しい。誕生日は本人の希望メニューで、ちらし寿司や茶碗蒸しの希望は多い。おやつは甘酒やお饅頭などあん物が好まれる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量、水分量を記録し、摂取量を把握している。</li> <li>・食材の使用量の基準を設け、職員による食事量のバラツキをなくすようにしている。</li> <li>・カロリー計算を行い、適切な摂取カロリーの提供ができていのかを確認している。</li> <li>・水分量の確保の為、本人が好む、または希望する水分を提供し、必要であれば水分形態にも工夫をするようにしている</li> <li>・本人が食べやすい食事形態(おにぎり・お粥・刻み食・ミキサー食など)を提供している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内衛生の為、毎食後の口腔ケアを実施している。</li> <li>・利用者の状態に応じて、必要ならば介助を行うようにしている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の排泄パターン、排泄習慣を考えた上で個別排泄表を作成し、それに基づいて排泄リズムを確立するように努めている。個別排泄表は適時更新している。</li> <li>・トイレでの排泄習慣が継続できるよう、排泄パターンや排泄リズムの見直しを行っている。また、おむつやパッドに関してもトイレでの排泄を考慮した上で適切なものを提供するよう心掛けている。</li> </ul>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握して支援している。自立の方やパットのみの方もおられるが、リハビリパンツとパットの併用者が多い。リハビリパンツや紙おむつ使用者には、陰部洗浄を定期的におこなっている。使用物品は家族と相談して了解を得ている。ポータブルトイレの利用者はおられない。</p>	

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘予防の為に、水分確保ができる食事や繊維質の多い食事が提供できるよう努めている。</li> <li>・排便チェック表を活用することで本人の排便パターンを把握し、排便コントロールを行うよう努めている。</li> <li>・体操(排便体操)やレクリエーションなどで体を動かすことにより便秘予防や便秘解消に努めている。</li> <li>・下剤を調整しながら服用してもらうことで、適切な排便ができるようにしている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴チェック表にてその日の入浴者の確認や、事前の声掛けを行い、入浴への意識を持ってもらえるように心掛けている。</li> <li>・本人に湯加減を確認してもらったり、入浴時間を調節することで、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。</li> <li>・入浴を嫌がる利用者に対しては、職員が協力し合って、入浴の意欲が高まるような働きかけを行っている。</li> </ul>	入浴は週2回を基本とし必要に合わせ対応している。暖房器具で脱衣所と風呂場、椅子など、温めてから利用者を誘導している。転倒予防には十分注意している。湯温や洗い方(泡洗い、タオルを使用するなど)にも個人の好みがある。1人30分程度をかけ、ゆっくりと入浴をおこなっている。バスリフトの設置で職員の介助の負担軽減を図った。入浴後は保湿剤や外用薬の塗布、水分補給など支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日を通して、運動と休息のバランスを考え、疲労が蓄積しないよう心掛けている。</li> <li>・10日に一度リネン交換を行い、清潔で気持ち良く眠れるよう支援している。</li> <li>・アロマなどリラックス効果が得られるような工夫をしている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの薬剤情報を管理し、服用している薬の把握に努めている。</li> <li>・薬の変更があった場合は、申送りや連絡ノートにて伝達することで職員全員が情報共有できるようにしている。</li> <li>・薬の変更時には、状態変化の有無など、経過観察を行っている。</li> <li>・服薬時は職員間でダブルチェックを行い、また、服薬確認シートを活用して誤薬や飲み忘れ防止に努めている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができることを見つけ、積極的にやってもらうようにしている。</li> <li>・家庭菜園での野菜作りの年間計画を立て、継続的に畑作業ができるよう努めている。</li> <li>・本人の趣味を生かした取り組み(裁縫、生け花など)を行っている。</li> <li>・職員のレクリエーション担当を決め、継続してレクリエーションが提供できるようにしている。</li> </ul>		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の思いを家族に伝え、家族との外出ができるよう支援している。</li> <li>・ドライブや外食などは季節が感じられることを配慮するなどして計画、実行している。</li> <li>※今年度は新型コロナウイルスの影響により外食は行っていない。</li> </ul>	<p>コロナ禍で日常的な外出は自粛中であるが、気分転換のためドライブをおこなっている。(桜、コスモス、紅葉や景色の良いところ、神社、湯の花温泉など)今年度の目標達成計画に、誕生日に本人の希望に合わせての外出支援をあげていたが、コロナ禍で実施できていない。コロナ感染収束時には実現できることを期待したい。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が希望される場合、家族と相談した上で所持してもらうようにしている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら電話ができる利用者については、家族の了承のもと、連絡を取ってもらっている。</li> <li>・自ら電話ができない利用者については、職員が連絡し、本人の意向を伝えるようにしている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用スペースにはソファや椅子を設置し、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるようにしている。</li> <li>・季節に応じた壁飾りを利用者と共に作成し、季節感を感じてもらっている。</li> </ul>	<p>リビングは窓側にソファ、少し離れテーブルと椅子が設置してある。利用者の席は相性を考慮しているが「テレビの見える席がいい」とか難聴の方にも配慮し決めている。座布団や足台で椅子の高さ調整をしている。菜の花や桃、菊の花が活けてあり、壁には皆で創作した椿の花が咲いている。利用者の要望で雑誌を購入し本棚に並べ、「新聞を早く読みたい」と言われる方にも応えている。加湿器や噴霧器(消毒液)を設置して換気はこまめにおこない、掃除は掃除機、モップがけ、消毒液も使用して毎日実施している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用スペースにはソファや椅子を設置し、気の合う利用者同士と一緒に過ごせたり、また、一人での時間も過ごせるような居場所づくりに努めている。</li> </ul>		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には、使い慣れた家具や物品、家族の写真や自身の作った作品などを飾り、居心地の良い居住空間が提供できるよう心掛けている。</li> <li>・本人の生活パターンや動線に基づいて、家具や物品の配置を考え、より過ごしやす居住空間になるように工夫している。</li> </ul>	<p>入居に当たって、生き物とハサミなどの危険物の持ち込みはしないように依頼している。居室には収納スペースがあり、持って来られた小タンスやテレビ、椅子、テーブル、時計、写真、自作品など置かれ整理がゆきとどいている。ポットを持参して、お部屋でコーヒーを飲み憩われる方がいる。職員は毎日掃除機をかけ拭き掃除をし、シーツ交換時にはベッドの下から室内隅々まで「丁寧掃除」と称した作業を実施して住環境を整えている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の居室が把握できるよう、利用者に応じて、目印となるような飾りや、ネームプレートを付けるようにしている。</li> <li>・トイレの場所が分かるように、トイレの案内表示を設置したり、夜間においては、照明を点けた状態にするなどの工夫をしている。</li> </ul>		